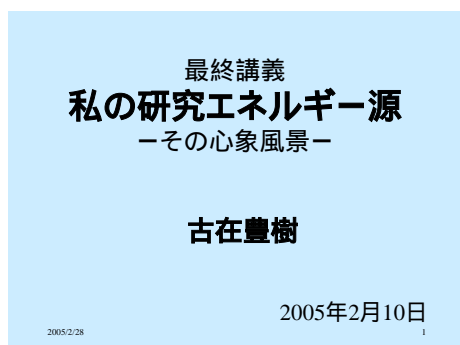


この最終講義は、私の千葉大学退職に際して、2005年2月10日(金)午後4時から、園芸学部大講義室において、200人ほどの聴衆を前にして行われたものである。録音テープの音声を文字に変換した後、多少の加筆修正をおこなった。千葉大学学長に就任するために、65才の定年より4年早く退職することになった。

はじめに

本日はこのようなりっぱな最終講義の機会をもうけていただきまして園芸学部の皆様に心から御礼申し上げます。また今日遠くから来てくださった方々にお礼申し上げます。卒業生の中にはずいぶん遠くから来てくださった方々がございます。心から御礼申し上げます。



今日私がお話するのは、私の研究エネルギーの源、ということです。先ほど、田川先生から、私の経歴や業績をご紹介いただきまして、大変ありがたかったですけども、私がこれから話すことは、私の経歴や業績と私の心の中はかくも違うものかとの印象を与えるかもしれません。

今日は、私の研究内容はお話ししないつもりです。そうではなくて、私がどんな気持ちで研究してきたかをお話ししたいと思っております。

ところで、私は、普段、講義のときは教壇の上にはあまりおりませんで、教壇からすぐおりてきて受講者に質問したり、眠ってる人に近づいて咳払いして起こしたりする癖があるんですけども、今日も、普段のままやらせていただきたいと思います。

私は、大学の助手となって職業としての研究者を始めてから32年間たちました。その前に大学院生として5年、それから大学院を卒業してから就職浪人を1年していますので、合計38年間、研究に携わっていることになります。その間、私は研究のモチベーションつまり動機を高く保つことに気がつかってきました。教員になってからは、学生の皆さん方の研究のモチベーションを高めることにも気を配りました。

税金を生活の糧にすることの心苦しさ

この理由の1つとして、国立大学の教員というのは税金から生活費を得ている、税金を使って生活させていただいているという心の負担が私には強くありまして、税金を使っているからには研究の成果を社会に還元しなければいけないという気持ちが強くございました。また学生の皆さん方にもそう思ってほしいと願っています。

今日これから私の話を聞いてくださるのは学生さんだけではなく、もと若かった人、元学生の方もいらっしゃるけれども、今日は、できるだけ若い人あるいは悩める人を標準にして話したいと思っています。

研究者古在との別れ

一方で、私の個人的な現在の心境を申しますと、仕事としての研究を間もなく辞めることがこれほど辛いことだとは思いませんでした。自分が4月から研究を職業としてはできなくなるということに心の整理が未だ出来なくて、非常につらい思いがございます。

そういうイメージがありますもので、私は、今日は、研究者古在のお葬式を行う、皆さん方はこの葬式に参列して下さっている、今ここで話をしている私は、研究者古在に甲辞を述べる個人としての古在だとそんな心境でございます。

人生行動指針

- 多重目的計画 - 何か1つは達成する。
- 多重目的行動 - 途中を楽しむ。
- 赤子の目で物を見る - 恥かきを楽しむ。
- 組み合わせの妙を活かす。
- よい指導者、良い仲間を得る。
- いのちをいつくしみ、空気・水・光の流れを気持ちよく感じる。

大学院生

2005/2/28

6

研究・生活のモットー

私の場合、大学院に進んでからは、研究イコール人生みたいなのがございました。その38年間の研究のプロセスで、自分で見出してきた研究あるいは生活していくうえでのノウハウみたいなものがいくつかございます。それをスライドに示しました。一番。多重目的計画。何か1つは達成する。二番。多重目的行動。途中を楽しむ。三番。赤子の目で物を見る。恥をかくことを楽しむ。四番。組み合わせの妙をいかす。五番。よい指導者、よい仲間をつくる。六番。命をいつくしみ、空気、水、光の流れを気持ちよく感じる。

このようなことを自分の研究と生活のモットーにしてきました。これらのモットーは自分で編み出してきたものです。もちろん先人の方で既に述べている方、知っている方はたくさんいると思います。でも、ここに書いたのは、自分で編み出し、実感として持っているものでございます。これらの中で、今日お話しするのは一番目の多重目的についてだけでございます。二番目以降のことは、別の機会に話したいと思っています。

1973年4月～2005年1月

- 出勤(登校)時刻:6時半～7時半
- 平均出勤日数:340日/年

2005/2/28

2

研究生生活パターンの特徴

さて、私が助手になってからの32年間の研究生生活パターンの特徴を一言で表わすと、このスライドに書かれたこととなります。32年間、よほど体調が悪くないかぎり、夏は毎日6時半頃、冬は7時半頃には大学の研究室に出勤しました。6時半に研究室に着いて、人があまり居ない9時半ころまでの間に何をするかは、研究室に入る前に頭の中で整理ができています。夏などに早起きしたときは、研究室に入る前に大学キャンパス内外を散歩することもあります。部屋に入った途端に論文執筆などの仕事を始めて、約3時間は休みません。普通の人の日分の仕事をその3時間で終わらせるつもりで集中します。そして、9時半から10時になったら、その日の夜までの時間は、世のため、人のために使う気持ちで、32年間、仕事を続けてきました。

夜は大体7時から10時の間ぐらいに大学を出て帰宅しました。また、一年間に340日以上は仕事をしました。大晦日まで仕事をして、1月2日から働くのはごく普通でした。他人に言える趣味といえば、散歩とせいぜい読書ぐらいです。「散歩」にも多くの意味があるのですが、今日は、それを話している時間がありません。

ところで、今は2月なのに、ここには1973年から2005年1月と書いてあることにちょっと意味があるのですが、その理由については講義の最後に述べます。

本題に戻りまして、朝6時半に研究室に来るということは一方では非常に気持ちのいいことですが、それを学生のときを含めると38年間続けるには、それなりのモチベーションと目標が必要です。なお、大学院生の時に朝早く来られなかったのは、私は修士課程の学生のときに結婚して1年後には子供を授かりましたので、4年間にわたり、平日の朝には、保育園に子供を連れて行きました関係上、登校が遅くなったためです。この間は帰宅時間を遅くしました。それでは次のスライドをお願いします。

人生(死に方)の目標

こんな姿勢で、
こんな気持ちで死にたい。

中学生

2005/2/28

3

多重目的行動

さて、今から多重目的行動について話をします。多重目的は多目的とは異なります。多目的は、並行して達成しようとする複数の目的を意味しますが、多重目的はただ1つの最終目的の達成につながる、短期目標、中期目標などの、時間軸に沿った複数の目的を意味します。

人生の最終目標 - 死に際の姿勢

私の人生の目標はただ一つで、このスライドに示したこと以外にございません。こんな姿勢で、こんな気持ちで死にたい、ということでございます。これが人生の目的であると同時に死に方の目標であります。私はこういう風に死ぬために日々努力するのだと、こういう風に死ぬるように日々努力したいと、それが私の生きがいであり、楽しみである、そういう風に思って今まで生きてまいりました。こういう風に思い始めたのは中学生の時でございます。私は、色々な事情がありまして、中学の頃から死を絶えず意識する状況にありました。頭の中に絶えず「死」というものが離れない状況でした。そして、「死ぬまでをどう過ごすか」という観点から「どう生きるか」を考えていました。

目標とする死に際の姿勢 高岡由紀子 画



そこで、私が目標とする死に際の姿勢、こんな格好で死にたい、ということは中学のころから強いイメージ、実際の画像があって、このイメージはいまだに消えません。この絵は、研究室の卒業生である高岡由紀子さんに以下のメールの文章を送って、書いてもらったものです。それはこういう文章です。

4月初旬の晴れた夕方、空腹で疲れきった男が田舎の道の傍らにひざをついてうずくまっ

ている。男は、そこに咲いているピンクがかった薄紫の野草を、親鳥が子供を育むように、お腹で包んでいる。男のお腹の部分には、本当は、ピンク色の花が咲いた草があるのですが、それはこの絵の都合で見えません。男はこの花の命が今夜の遅霜で受粉前に絶えることの無いように、そして、次の朝、太陽が上がり始め、気温が上がるまで自分の体温で暖め続けるつもりです。男は自分の命が絶えるとも、この花が、受精して、草の命が次の年に続くことに心から満足しています。周囲は畑で、遠くに山が青く霞んでいます。こういうイメージです。

この絵は、世間体というと、一人の男の野垂れ死にですね。他人が見たら、男が道端で寝転んで死んでいたよ、と。多分、ホームレスか浮浪者なんだろうな、と思うような情景ですけども、これが、「こうやって死にたい」と、中学のときから思い続けていた、私の理想的な死に方です。

だけれども、このように死ぬのは、結構大変なのです。なぜかというと、この人は疲れきって腹がへっているのです。できたら地面にバターンと倒れたいのだけれども、お腹の下に可憐な花を咲かせている植物があるので、そこに空間を作らないといけない。自分は寒いだけれども、我が身を挺して、この草花を暖めているのです。自分の体温で暖めるために、倒れこむのをがまんしているのです。明け方になり日が射して気温が上がってきて、この草花はもう凍え死にしない、間もなく蜂が飛んできて受粉して、種子を残し次の年にも花を咲かせるだろうと思ったその時に、この私は最後の力をふり絞って、道のこちら側にバタンと崩れて死んでいくのです。その瞬間に私は、美しい生き物を守りきって次代につなげたという、最高の幸せを感じて死んでいくというイメージです。



人生の最終目標 - 死に際の気持ち -

さて、その死の瞬間にどういう気持ちになりたいかを示したのがこの絵です。この絵は以下の私の文章にもとづいて、高岡由紀子さんが描いてくれたものです。田舎の田んぼに植えた、れんげの花が一面に広がっています。春うららの晴天で、空にひばりが鳴いています。向こう側に、幅5メートルほどの川が見え、対岸の土手には草が茂っています。4歳ほどの子供がれんげ畑の地面の上、1メートルほどの空中に横たわっています。子供はとても幸せそうです。空中にうかんでいるその子の左手のそばでは、蝶が舞っています。右手

には、れんげの花をつかんでいます。この情景を私は5メートルの手前から見ています。

物理的には先ほどのうつぶせの格好をして、気分としてはこちらの絵のような気分です。これは幸せですよ。そう思いませんか。

6 才以前の時の記憶が実は臨死体験

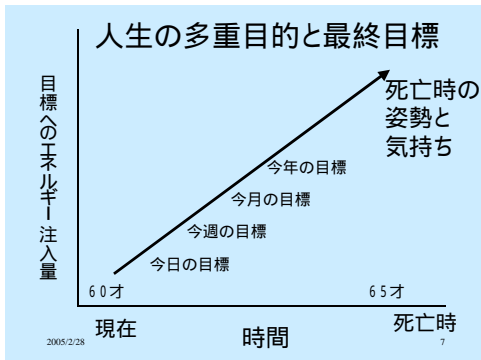
実は、このイメージは、私の小学校入学前の唯一の実体験の鮮やかな記憶として、中学生のころからしばしば追憶していたものです。その頃、私は千葉県夷隅郡の田舎に疎開していたのですが、その疎開先の田舎でこうやって遊んでいた体験のイメージであるとずっと信じていたのです。

ところが、立花隆さんという人が書いた「臨死体験」という上下2冊の本を5,6年前に読んで、この絵のイメージが実体験でなく、私の臨死体験であるらしいことがわかりました。この本は、臨死体験、一度死にそうになってあの世からこの世に還ってきた人が、死にそうになったときにどういう経験をしたかという実例を世界中から集めて、事細かに記録した、千数百ページの本です。

その本の中に書かれている、最も典型的な臨死体験のパターンがこの絵に示したとおりなのです。どうして臨死体験を実体験とってしまったのかについては、今日話している暇はないのですが、私は昭和18年(1943年)生まれで、第2次世界大戦の真っ最中に幼児だったこと、やや特殊な家庭環境だったことが合わさって、言ってみれば、栄養失調、病弱、空腹(注1)、経済的困窮、社会的被差別などが複合的に関係しています。(注1). 人間は、真につらいときは精神的に記憶喪失状態になり、記憶は深層心理に埋め込まれるということでしょうか。

臨死体験の特徴は、このような情景において、向こう側に川があることです。また、自分がちょっと空中に浮かんでいる。下はベッドだったり、床だったり、地面だったりするのですが、ちょっと浮かんでいる。臨死体験のもう1つの特徴は、ちょっと浮かんでいる自分を見ているもう一人の自分が手前の高い位置、つまりこの辺にいます。自分が二人いるのです。

皆さん方も死ぬ間際には、私が言ったことが本当か嘘かわかるはずですよ。覚えておいてください。ともかく、こんな気持ちで死ねたらいいなと、あの時はいい気持ちだったなと中学生以来、ずっと思い続けてきたのです。



人生の最終目標につながる時間軸にそった複数の目標

さて、この図は、私の人生の多重目的と最終目標への道筋を、横軸を時間軸として示したものです。縦軸はどのように表現したら良いかわからないので、一応、目標へのエネルギー注入量と書いておきました。ここには、私の死亡時刻における姿勢の目標とそのときの目標とする気持ちにたどりつくまでの、時間軸に沿った目標が書かれているわけです。

死亡時のイメージは私にははっきりしているのです、それに合わせて、たとえばこのイメージで死ぬために、今日はこう、今週はこう、今月はこう、今年はどういうことをしたい、と私は考えています。そして、このような、時間軸に沿ってならべられた、最終目標につながる一連の目的を、私は、多重目的と呼んでいます。

ところが、多重目的を明確にしても、もしかしたら、今月あるいは来週に死ぬかもしれない、今年中に死ぬかもしれない、来年死ぬかもしれない。要するに、いつ死ぬかわからないわけです。いつ死ぬかわからないから、常に、目標とする死のイメージをもって、強い気持ちで今を過ごすことが大切になる。今日やりたいと思ったことは今日なしとげ、今週の計画は今週中に達成する必要がある。そう思っていると、そうすることは少しもつらいことではなく、生きがいであり、楽しみになる。うきうきした気持ちになる。こういう気持ちで、どうしても朝 6 時半に学校へ行ってしまうのです。つい、土曜日も日曜日も、さらには大晦日や 5 月の連休にも、どうしても大学に行ってしまう。もう行きたくて行きたくてしょうがない。家で目が覚めた瞬間に、「今日、これをやりたい」という感じになるわけです。というわけで、そういうふうにならば三十数年間やってまいりました。

自分が何故こういうようになってしまったのかと、自分でも時々不思議でした。というか、私は別の不思議を感じていました。なぜ、他の人は 8 時半とか 9 時半とか遅く大学に来るのだろう、10 時半ごろになって来る人たちはなぜもっと早く来たいと思わないのだろう、とっていました。

人生の最終目標の 1 時点前の目標

ちなみに、私の人生の最終目標の 1 つ前にある目標は、食べるものにも困るほど困難な状況にあるが希望を失わずに頑張っている農民、特に、園芸農家に役立つような技術・方

法を開発し、それらの人々に喜んでもらいたいということです。20 年ほど前までは、園芸農家は水田農家や畑作農家に比べて、所有する土地が狭く、しかもその土地が平地でなく、さらに灌がい水に不足しているのが普通で、農家の中でも経済的に恵まれていない場合が多かったのです。なお、最近では、私が役立ちたいと考えている人々は、農民だけでなく、困難な状況下で頑張っている、農民以外の人々に範囲が広がってきてはいます。

22-31歳

- 22歳(3年生)育種研専攻を断られ、花卉研にも行けず、新設で希望者ゼロの環工研を専攻する(研究者として最大の幸運)。
- 23歳(4年生)7月、就職試験の前日に姉が事故死して、試験を受けず、11月末に大学院受験。
- 24歳(修士1年)、大学闘争で大学封鎖。
- 28歳、学位取得し、妻子あるも、就職先なく浪人。
- 29歳、大学助手になも、会社への転職を決意、採用内定通知を受取るも、その後、採用内定を取消される。
- 31歳、思い出づくりにオランダへ半年間留学(第2の幸運)。

2005/2/28

8

幸運かつ楽だった 20 歳代の生活

私の過去を振り返ると 私の 20 歳代は、それまでの人生に比較すると非常に順調でした。それでもスライドに示したようなことは起きていました。たとえば 22 歳のとき、千葉大学園芸学部園芸学科の 3 年生で、育種学研究室の専攻を希望したのですが断られました。第二希望の花卉園芸学研究室にも行けず、結局、新設で希望者ゼロの園芸環境工学研究室を専攻することになりました。

私は、育種農家になりたくて園芸学部に入學したわけですが、当時、育種学研究室は専攻生を毎年一人しか取りませんでした。「育種研を専攻したいのだけれど。」と言ったら当時の先生にだめだと言われて、「どうしてでしょう」と言ったら、「私はあなたがきらいだから。」と言われて、おわりでした。第二志望の花卉研には希望者がすでに 10 人いて、「今頃になって来てもダメだ」と言われました。それで、その年に新たにできた環工研を専攻したわけです。ところが、ふりかえてみると、育種研も花卉研も両方だめだったことが、多くの意味で、私の研究者としての最大の幸運だったのです。なぜ幸運だったかは、後で時間が残ったら、お話しします。

私は浪人を 1 年間してから大学に入學しましたから、23 歳で 4 年生ですね。7 月初旬に就職試験を受ける予定でいたら、その前日に私の 2 歳上の姉が水難事故死してしまいました。それで、試験の日はもちろんパァです。そこでしばらく何も手がかからないでいたら、11 月末に大学院の試験があることに気がきました。当時、東大の農学系大学院では、入試面接でやる気を見せれば、ほとんど入學試験の点数によらずに合格するようでした。

それで昭和 42 年(1967 年)に大学院に入學したら、大学闘争があって大学が封鎖されてまともな授業による勉強はしませんでした。講義はほとんどありませんでした。それでも、5 年後に何とか学位を取得しました。当時、修士課程の学生の時に結婚し、このとき子

供が2人いたのですけれども、就職がなくて、1年間博士浪人しました。1年たったら大学の助手でお声がかかりました。とてもありがたかったですけれども、助手になっても研究者としての自信がもてませんでした。私の研究が世間でほとんど評価されなかったのです。大学教員を続ける自信がないので民間会社への転職を決意し、就職面接試験を受けて、内定が決まりました。内定が決まってしばらくしたら、内定取消し通知が届きまして、またパアになってしまいました。その内定取消しの理由がわかったのが、それから20年後でした。私自身の素行や能力が理由ではなくて、私の父親の社会的活動が理由でした。

もう研究者はだめだと観念しました。仕方がないや、けど私は温室（施設園芸）環境調節の研究が好きで一生懸命に研究をしていたので、当時世界最大の温室園芸先進国だったオランダへともかく行ってから研究におさらばしたいと思って、思い出作りに半年間だけオランダへ留学に行ったのです。そうしたらオランダで温室環境調節研究者としてブレイクしたのですね。そのブレイクについて詳しく話す時間がないのが残念です。オランダでのブレイクが一因となって、オランダから帰国して約1年後に、千葉大学の助教授にいただきました。

人生の偶然を必然にかえていく最終目標

今、私は自分の20才代の経験を少しだけ皆様にお話ししました。20才代の話をするようになったのは私が50才を超えてからです。中学生以降の経験は、50才を超えるまで心の奥深くに封印されていましたが、50才を超えてから少しずつ心の表層に浮かんできて、54才になったときに人に話せるようになりました。7才~12才までの経験は、最近、心の表層に時々浮かんでくるようになりましたが、未だ、人に話せる心境にはなっていません。他方、6才以前の経験は、私の心の深層に未だに沈んでいるので、私にもわからない状況です。この深層心理を解きほぐすにはまだ時間が必要なのです。

というわけで、本当に人生っていうのはわからない。これは若い皆さん方、肝に銘じて下さい。人生は思うとおりにいきません。何が幸運だか不幸だかも時間が経過しないとわかりません。ある意味では、人生は偶然の連続です。それでも、根元的なモチベーションと遠い目標があれば、それらの偶然がつながりを持ち、ある時間を経過すると、全体として意味を有し、遠い目標との関連を持ち始めるのです。だからこそ、モチベーションと目標が非常に重要なのです。

最終目標は抽象的にして短期目標は具体的にする

今週の目標、今月、今年の目標は具体的で、できれば数量的であることが望ましいと思います。他方、人生の最終目標は、イメージとしては明確でなければならないが、姿勢、信念、気持ちなどに関することですので、抽象的である必要があります。社長になりたい、一番になりたい、などと具体的、数量的であってはならないのです。

他方、最終目標がイメージとしては明確であるが抽象的であることにより、途中段階の

今日、今週、今月の具体的な目標がたとえ達成できなくても、気持ちがぐらつかないのです。近未来の具体的な目標はうまくいかないことが多いのですが、だからといって、近未来の目標が無ければ、最終目標を達成するための困難には打ち勝てません。私が今まで多少とも困難に耐えてこられた、あるいは喜びをもってそれを迎え、そのプロセスを楽しむことすらできたのは、私の人生の最終目標、すなわち死に際の姿勢と気持ちが明確であったからだと感じています。そして、その目標が私の38年間にわたる研究エネルギーの源であったと感じています。

人生には多くの挫折と誘惑があります。お金、地位、名誉、権力などに関する欲に目がくらみそうになることもあります。もし私に明確な最終目標がなかったら、挫折、誘惑、欲に負けることが多く、こんなに楽しい研究生活はできなかつたと感じます。

人生感覚

- 恥ずかしくて、恥ずかしがれない。
- つらすぎて、思い出せない。
- 「かわいそう」とだけは言われたくない。
- 嫌うより嫌われる方が、差別するよりされる方が、はるかにうれしい。
- 死ぬときだけは幸福感につつまれて、自分の気持ちを身体で表現したい。

2005/2/28

9

中学生以前の記憶

先ほど述べましたように、私が小学生、中学生の頃の経験に関しては、具体的には、人には未だ話せないことが沢山あります。しかし、それらを抽象的に言えば、このスライドに書かれているようになります。

一番目。中学生になるまでは、恥ずかしくて恥ずかしがれませんでした。よく恥ずかしがる人がいますが、本当に恥ずかしいときは、恥ずかしくて、恥ずかしがれずに、無表情になります。二番目。辛すぎて思い出せない。あのときは辛かったなんて思い出せるのは実はたいして辛くない。ほんとにつらいとき、人間は五感の伝達回路を閉鎖して、記憶を脳の深層に閉じこめるので、辛かったら記憶が失われるのではないかと思います。三番目。「かわいそう」とだけは言われたくない。かわいそうといわれたいためには、恥ずかしくても、悲しくても、うれしくても、無表情で通すしかないのです(注2)。四番目。嫌うより嫌われるほうが、差別するよりされる方が、はるかにうれしい。私が子供の頃からこの気持ちになれたのは幸運であり、私の人生を楽にしてくれました。こう思うことにより、人を憎んだり恨んだりすることがほとんどなかったからです。五番目。辛い体験をいっぱいすると、死ぬときだけは幸福感につつまれて、自分の気持ちを身体で表現したいという気持ちになるのです。というか、私の場合はなつたのです。せめて死ぬときは自分の自由を満喫したいということです。私の場合、小学校に入学する前までは、臨死体験以外の記

憶がないのですからきっとすごかったのでしょうね。

小学校のときの記憶を少しずつよみがえらせて思い出せるようになったのは、私が50歳を過ぎてからです。また中学校のときの記憶を人に初めて話したのが54歳になってからでした。お手元の配布資料の1つが、私がその時に書いた、中学校の思い出です（補足資料1）。

才能と動機・目標

皆さん方の中には、自分は才能に恵まれないとか、努力してもうまくいかないと思っているかもしれませんが、そうでもないのです。私にいわせると、一週間とか一ヶ月とか一年とかの短い期間で考えれば、才能があるほうが良いですけど、20年、30年という期間で考えると、才能よりもモチベーションと目標の方がはるかに大事です。「モチベーションが続き、目標が明確である限り、才能はマイナーな要因である。」というのが、私が今まで生きてきた中で得た実感です。このようなことを、私は研究以外の事は何も知りませんので、研究を例にして、私の場合をちょっとだけお話ししたいと思います。

研究課題の選択基準

- **マイナーなもへ絶ちがたいあこがれ** (社会的弱者への共感。気付かれていないこと、無視されているものに興味をもつ)。
- **知識や忠告よりも自分の感覚を大事にする** (そのためには、普段の生活をシンプルにする)。

2005/2/28

10

研究課題の選択基準

私自身の研究課題の選択基準がここに書いてあります。第一は、マイナーなものへの絶ちがたいあこがれ。社会的弱者への共感。気付かれていないこと、無視されているものに興味をもつ。第二は、知識や忠告よりも自分の感覚を大事にする。そのためには、普段の生活をシンプルにする。

この選択基準のように、自分の個性を生かして研究課題を選択すると、オリジナリティー（独自性）が必ず現れてきて、またその課題を持続的に研究できる、と感じています。と言うのは、研究をしていると、その持続を阻む色々な誘惑がございます。この課題を研究するのなら研究費がもらえるよ、とか、この課題を研究したらあのえらい人に喜ばれるよ、とかの誘惑があります。私は、その誘惑に部分的、一時的に絡んだ研究課題を取り込んだことが何度かあります。しかし、その課題を取り込んだことが、先ほど述べた遠い目標につながっていくものであれば、私自身の一連の研究課題の一部として取り込めるわけです。他方、遠い目標につながらない課題は、どんなに強い誘惑があっても拒否する節度

が必要です，というか，私の場合，遠い目標の方が誘惑より吸引力がはるかに強いわけです．人生の最終目標が不明確な人は，時々アメやムチあるいは誘惑により研究課題に一貫性がなくなりがちになるのではないかと感じます．

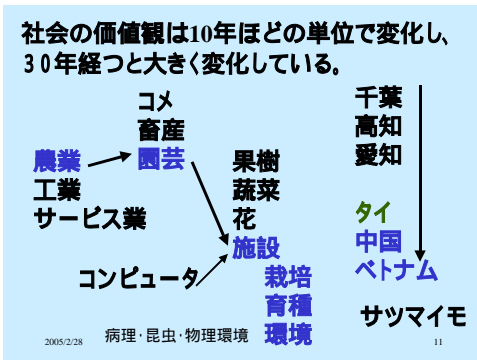
嫌いなものを好きになるのが趣味

今述べた理想と現実との折り合いと言うか，現実を理想につなげていくために私が若いときから自覚して培ってきたノウハウがあります．それは，「遠い目標のために，嫌いなものを好きになることを趣味にする」ということです．自分が嫌いなものを好きにすることを自分の楽しみにするのは簡単です．たとえばトマトの味が嫌いな場合，2～3日間，一切の食物をたべずに，おなかをすかせるのです．その時に，「私が愛している人が育てたこのトマトの味を嫌えば，その人の心を痛めることになる」と思いつつトマトを食べれば，おいしいと感じ，「トマトが好き」という感覚が生じてきます．今のは余り良くない例で，しかも抽象的な言い方ですが，私はそうやって，自分がこれはだめだ，あれはだめだと思っていた嫌いなもの，苦手なものを好きなものに変えていく術を身につけてきました．こういうことを言うと偽善的に思えるかもしれないけれども，今は，不得手なものや苦手なものはあっても，嫌いなものを思いつかない状況に私はなっています．今，思い起こして見ると，このように思えたのは，私に「愛するもの，好きなもの」として，友達としての犬，猫，植物，虫がいて，それらのためであれば多少のつらさは喜んで我慢できたからだと思います．

自分の感覚を大事にするには生活をシンプルに

第二に．知識や忠告よりも自分の感覚を大事にするのは，研究では重要なことです．研究の世界では，こういう文献があるとか，偉い人がこう言ったとかの，研究上の常識があるわけですね．それらの常識と自分の感覚が合わないとき，私は自分の感覚のほうを大事にします．ただし，自分の感覚は従来の常識よりも正しいと思うには，にせものにだまされない感覚あるいは鑑識眼を維持するための節制が必要です．そのためには，生活をシンプルにするのがベストです．

たとえば私が，私の本来の目標につながらない誘惑にもとづいて研究していたら，たちまち研究内容がだめになる．多くの人によく見られたいなどと人の評価を気にしたり，評価する人の経歴を気にしていたら，目が濁って真実が見えない．真実を見えるようにするには，立派な家だとか土地だとかお金だとかを一切断ち切った，シンプルな価値観が必要だということです．これは「赤子の目で見ると」ということと関係するのですが，ここではその話はやめて，次の話題にうつります．



研究課題の傾向 - マイナーなものへの親近感 -

さて、私の研究課題の傾向を少しだけ話させてもらいます。私の研究は、見かけ上、時代の最先端を走ったと一部で思われているかも知れませんが、それは結果であり、私の研究課題の選択基準は全く違います。ある目標を達成しようとして、その達成に効果的な方法を探していると、最新の道具あるいは手法、たとえばコンピュータやバイオテクノロジーに出会うことがあっただけです。

私は昭和38年、下降産業になることが確実にされた農業分野を進路選択し、千葉大学園芸学部に入りました。当時、農業分野では、米作が第一番で、畜産が第二番、園芸はマイナーだった。園芸の中では、果樹と露地野菜がダントツで、花はマイナーだった。私が学生のころ、温室園芸は、趣味園芸と考えられている部分がありました。その当時、施設園芸という用語はまだなかったのですが、ビニールハウスと呼ばれる園芸施設があらわれて、私はその施設を研究対象に選んだのです。施設園芸分野は、栽培、育種、環境と分かれていました。栽培は当然メジャー、育種はセカンド・メジャー、環境はマイナーでした。環境分野はさらに病理、昆虫、物理環境と分かれていて、私はこの物理環境を選んだのです。

別にマイナーだから選んだのではなく、物理環境分野が私の心をとらえたのです。それまで、物理学、工学、数学は大の苦手、植物と植物生態学が好きでした。加えて、「物理環境やったってしょうがないよ、誰も注目しないよ」とまわりから言われました。ですけども、理由は明確には説明できないが、その研究は、私の死に際の理想的な姿勢と気持ちに近づける、という感覚に引っ張られたのです。結果的に、マイナー中のマイナーに潜む何かに強く惹かれたのです。

と言うのは、私が学生の時代は、土地が傾斜しているか、狭い土地しか所有していない農家が、米作や畑作では生活の糧が得られないので、土地面積当たりの収入が多い施設園芸を営んでいたのです。当時は、千葉、高知、愛知、静岡などにそのような施設園芸農家が数多くいて、ハウスの環境調節に困っていました。そのハウス環境の調節に物理的知識が不可欠だったのです。困っている農家を助けることが出来るとわかった時から、ウソのように物理学が嫌いという感覚が消えて、おもしろくなりました。物理学を勉強する明確

な理由と目標ができたからです。

日本から東南アジアへ

そのようにして日本全国の施設園芸農家と農業試験場を訪ねつつ研究を行いました。私は45歳くらいになるまでに、47都道府県すべての温室農家を訪ねました。ところが、私が40歳になる頃から、日本の施設園芸農家の多くにある程度経済的余裕が出来てきました。すると、その人々をそれ以上助ける気持ち相対的に次第に弱まり、私の関心は、タイ、中国、ベトナムなどの恵まれない農家に移っていきました。これは一見、東南アジアの人々のためですけれども、私の研究モチベーションを維持するためにも不可欠だったのです。そのような場所に行くと、飲まず食わずで頑張っている人に会うと、私のモチベーションがワァーと高まるのです。日本にいる時は私はボヤッとしていても、そういうところに行くと、私の細胞の一つ一つがグワァーと活性化するのが自分でわかるのです。そこでポイントが上がったモチベーションにより国内でがんばり。しばらくしたら再びそういうところに行くと、モチベーションを高く保ち続けたわけです。また、そのような場所から、恵まれない研究環境下でもやる気を見せている若手研究者を私の研究室に呼んで、一緒に研究しました。こうして、1985年以降、東南アジアを50回以上訪問し、数十人の留学生、外国人研究者を研究室に招きました。

研究教育記録の一端

- | | |
|--------------|-----------------|
| • 原著論文 210編 | • 海外渡航 80回 |
| • 総説論文 140編 | • 取材記事 87件 |
| • 編著書 137編 | • 外国人研究者受入れ 22人 |
| • 訳書 6編 | • 留学生受入れ 18人 |
| • 特許 20件 | • 学位取得者 18人 |
| • 国外招待講演 50回 | |
| • 国内招待講演 85回 | |
| • 非常勤講師 13大学 | |

2005/2/28

12

研究教育実績の意味 - 目標ではなく結果 -

それでは、そろそろまとめに入ります。今までの私の話を聞かずに、ここに示した私の研究教育業績を紹介すると嫌味ですよ。たとえば、私は原著論文を210編書きました。総説論文を140編書きました。著書137編、訳書6編、特許20件、海外招待講演50件、国内招待講演85件、海外渡航80回、滞在3ヶ月以上の外国人研究者受入れ22人、留学生受入れ18人などと記録が残っているものをだけでもこれだけあります。散逸した資料がありますので、実際はこれより少し多いと思います。また、滞在が3ヶ月以内の外国人研究者はかなり多数います。

時間の過ごし方

これらの実績を見ると、研究に没頭したみたいに見えるかもしれませんが、実際は、一般の人がイメージする研究に没頭するのは少し違う、楽しい作業なのです。それにしても、これだけ論文や著書を執筆するには、相当のモチベーションがないと出来ません。

私の時間の過ごし方は、ある意味で、両極端を往き来しています。散歩と思索というゆったりした時空間を過ごしている時と、農家の現場を訪れたとき等に生じる異常なモチベーションの高まりを感じている時、この2つの間を往き来しているのです。その間に論文や本を書いたり、講義をしたり、学生と話をしているのです。私は、海外渡航した帰路の飛行機の中で、ほとんど休み無しに何かのアイデア、やるべきことなどに関する原稿を集中して書き続けることがしばしばです。

学生に理解してもらうことの難しさ

ところが、私の研究室で、私が興味をもっている研究課題を、この研究課題はおもしろいよとか、この研究課題はどう、とか言って学生の皆さん方に勧める時は、今話したような私の過去の体験や背景と研究課題の関係を言わないわけです。また、私が今述べた両極端の時間を過ごしていることを学生は知りませんので、学生から見ると、私はとんでもないことを言い出す人間に感じられる訳です。だから、私にずいぶん苦労して、私を少なからず恨んでいる学生もいると思います。私から学生を見ると、「何なの、君たちは。世界には食うに困っても希望を捨てずに頑張っている人がいるのだよ」という気持ちが抑えられないことがあるのです。私の気持ちとしては、学生のモチベーションを高めるためにそのような態度をとるのだけれども、学生には必ずしもそういうふうには理解できないわけです。

ちなみに、人間には、困るとモチベーションが高まるタイプの人と褒められるとモチベーションが高まるタイプの人があります。私は困らないとモチベーションが高まらない典型的なタイプです。けれど、褒めるとモチベーションが高まるタイプの人があることは理解しています。とは言え、後者のほうの気持ちは本当にはわからないから、うまく褒められないことがあります。また、私の得意な「いじめによるモチベーション高揚作戦」が、時々、失敗するわけです。それでも私が「いじめ作戦」を捨てきれないのは、それにより飛躍的に成長する人が数人に一人はいるからです。研究室の卒業生で、今、世界的に活躍している研究者の殆どはそうして飛躍した人です。

主な学術・技術賞

- ・紫綬褒章（2003年）
- ・中国・国家友誼賞（2003年）
- ・昆明市科学技術奨励賞（2002年）
- ・日本農学賞，読売農学賞（1997年）
- ・日本生物環境調節学会賞（1992年）
- ・日本植物工場学会賞（1991年）
- ・日本農業気象学会賞（1982年） 他 5件

2005/2/28

13

さて，私はここに示したような学術賞などをいただきましたけれども，受賞することは私の研究のモチベーションにならないのです．ただし，受賞は，私独自の目標に向かって進んでいった結果が学会または関係者に認められたことですから，それは大変ありがたいと言う気持ちはあります．

人生の目標

- ・ どう思いながら、いかに死にたいのか。
- ・ 何に価値をおいて生きるのか。
- ・ 何が人生の目標になり得るのか。
- ・ 何が人生の喜びなのか。
- ・ 地球にどのようにかかわりたいのか。

2005/2/28

14

人生の目標を何にするか

そこで，皆さん方に最後に問いかけたいのです．第一．どう思いながら死にたいのですか．第二．何に価値をおいて生きるのですか．第三．何が人生の目標なのですか．第四．何が人生の喜びなのですか．第五．あなたは地球にどのように関わりたいのですか．

私は，どう思いながら，いかに死にたいのか，何に価値をおいて生きるのか，何が人生の目標になり得るのか，何が人生の喜びなのか，地球にどのようにかかわりたいのか，その一つ一つに，自分の経験から判断して，その時々のお答えを出してきました．今日私が述べたことは私の個人的経験ですから，皆さん方の参考になるかどうかはわかりません．ただ，若い方をお願いしたいのは，私が今日話したことは，絶えず頭のどこか，心のどこかにしまっておいていただきたいということです．そうすると，高いモチベーションと生きがいを感じながら生きられる．そうすれば毎日どうしても朝 6 時半から働き始めちゃう，誰が止めてもだめなのです．

感謝

私が妻に感謝していることの 1 つは，私がこんな生活をして，私の行動の意義を良く

理解してくれた、よく離婚されなかった、ということです。私は若いときに結婚して、大学院生・博士浪人の間は妻に経済的に養ってもらっていました。子供が3人もいて、私のように研究一筋だったら、普通の奥さんだったら「何考えているんだ」ということになると思います。運悪く、私みたいな男の人と結婚しちゃった女の方は、どうか許して下さい。きっとその人は私のようなモチベーションがあるのだと思います。また3人の子供にもずいぶん迷惑をかけました。もうしわけないと思っています。

その他にも私を導いてくれた方、支えてくれた人、モチベーションを高めてくれた人、助けてくれた人、さらには友達としての生き物たちが数多くいます。感謝の気持ちを込めて、この人たちについて、いつかお話しする機会をもちたいと思っています。

いつでも満足して死ぬるように
日常生活を楽しく、意義ある
ように過ごしましょう。

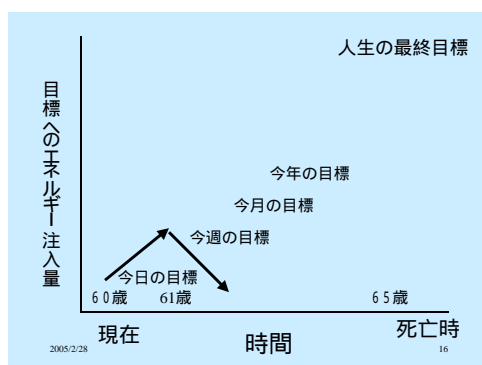
- 研究と勉強は異なります。
 - 研究は創造活動です。
 - 研究者は社会に不可欠な存在です。
 - 研究者は、まず困っている隣人を愛し、地域を愛し、そして地球を、宇宙を愛しましょう。
- 完。

2005/2/28

15

研究者としての遺言

最後に、私の研究者としての遺言を述べます。一番、いつでも満足して死ぬるように日常生活を楽しく、意義あるように過ごしましょう。二番、研究と勉強は異なります。研究は創造活動です。研究者は社会に不可欠な存在です。研究者は、まず困っている隣人を愛し、地域を愛し、そして地球を、宇宙を愛しましょう。これで私の話は「完」のつもりでした。



目標が突然に無くなるようになる

「完」のつもりだったのですが、最後に恐ろしいことが今から 2 週間ほど前の 1 月下旬におきました。私は、何かのめぐり合わせで、4 月から千葉大学の学長になることが去年の 12 月半ば頃に予定されてしまいました。そのときは、自分は 4 月に学長になるからといって研究者を辞めなければならないという意識は全くありませんでした。ところが、いろいろな人の話を聞くにしたがって、4 月以降、私は研究してはいけならしいことがわかりました。このことが 1 月末に確実になったとき、私が定年になる 65 歳までの今後 4 年間の研究目標がガラガラと崩れたわけです。私の今後 4 年間の目標・計画は決まっていたから、それらができないことがわかってからは、朝、ベッドから起きられなくなってしまったのです。朝、目が覚めても、布団から出られなくなってしまった。そして、何とか 8 時半には重い気持ちで研究室に着くような怠け者人間になってしまった。

こういう状況になって、朝 8 時半にならなければ学校に来ない人の気持ちがようやくわかりはじめました。それでも、10 時半まで大学に来ない先生の気持ちはまだわかりません。そして、人間はモチベーションと目標がかくも重要なことなのだと、改めて気がつかされたのです。モチベーションと目標がないと、人間は日々の気持ちの高まりがかくも低くなるのでしょうか。

今、この部屋に私の研究室の学生もいますけれども、申し訳ないことに、私の現在の研究テンションは最低です、去年までは、1 月と 2 月は、学生の卒業論文提出の締め切り、講演要旨作成、研究発表会の練習などで、一年で一番テンションが高まる時期なわけです。それが今年は全く上の空になってしまいました。「アー、やっているな」と自分のこととは無関係のことに感じてしまいました。もう私は学生に大きいことは言えなくなってしまったな、と後悔している今日このごろです。

皆さん方、何かやりたいことがうまくいかないとすぐ、能力がないとか不運だとか、思うかもしれないけれども、そうではないのです。何か目標を持つことと、モチベーションを高めることが難しいかも知れませんが、一番大切なのです。

今の私のままでは、学長としては落第です。4 月までに、今後 3 年間の新たな目標を定め、モチベーションを高めたいと思っています。研究者と大学運営者とは仕事の種類が相当違うと思うので、頭と心の切り替えをあと 1 ヶ月半でできるように、何とかしたいと考えています。そして、大学構成員全体のモチベーションを高め、目標を共有したいと考えています。

ご清聴ありがとうございました。

興味があれば
処分資料をお持ち帰り下さい。

2005/2/28

17

それでは、これで私の最終講義を終わりにさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。一ヶ月半後の退職に向けて、私は研究室のいろいろな書類を処分し始めています。毎日、朝来ると書類を捨てることが仕事になっています。毎日、どの書類を捨てるかと悩み、捨ててはゴミ箱からとりだすという、ばかげたことをやっています。その捨てるべき資料の中で、今日お話したことに関連した資料2点（注10）を、どなたかが持ち帰ってくれるかもしれないと思って、教室のドアの近くに置いてあります。もし、ご興味があればお持ち帰りください。どうもご清聴ありがとうございました。